

東北大学病院 卒後研修センター
(総務課臨床研修係)

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1番1号
TEL: 022-717-7765 / FAX: 022-717-7143

がんばってます！ 研修医！



東北大学病院
2年次研修医

古知 龍三郎先生

自己紹介・研修に対する意気込み

大阪に生まれ、東京の順天堂大学を卒業後、初期研修から当院でお世話になっております。てんかんサイエンティストを目指し日々邁進中です。リタイア後はハワイでロコモコ井屋経営を考えています。

【趣味】ヘヴィーメタル

【好きな本】じゃりん子チエ

【好きな食べ物】クリームシチュー（魚介抜き）

【休日の過ごし方】健康ランドの塩サウナで瞑想（顔にも塩を塗るタイプ）、足つぼ

◎指導医からのメッセージ

東北大学病院 てんかん科

柿坂 庸介先生



古知先生は「これぞ関西人！」のパワーあふれる先生です。分からない時、即座に Pubmed をひらき怒涛の文献検索・精読を行う先生を見るにつけ、将来どんな発見をして世に名をとどろかすのか今から楽しみです。彼が研修を終えた後、てんかん科が「古知ロス」に襲われることを心配しております。研修が終わって一緒に働けることを心待ちにしております。

東北大学病院でがんばっている初期研修医をご紹介します。

てんかん科研修に込める思い——。

私は学生時代にてんかん研究に携わる機会があり、以来寝ても覚めてもてんかんの事を考えています。そしてこの度、御縁ありまして中里教授が主宰する東北大学病院てんかん科で研修ローテをさせて頂きました。当科は日本のてんかん分野を牽引し、世界的にも影響力を持つ一大組織です。その様な集団の中で研修医の自分が何をなし得るか、常に自問自答していました。結論として、通常の研修に加え、患者との信頼関係の確立に尽力しました。「比較的時間的余裕がある者」、「限りなく患者側に近い医療従事者」としてその立場をフル活用し、問診には2時間以上かけることも、断眠負荷の日には深夜に会いに行くこともありました。当科の入院は大半が精査目的であり、病状に変化はありません。それでも真の信頼関係が築けた暁には退院の際に「先生に担当してもらえてよかった」と最高の笑顔を見せてもらえます。仁術である医学は、決して見かえりを求めるものではありません。しかしこれらの体験は次への活力となり、なによりも医療人冥利に尽きます。このような研修機会を与えて頂いた中里教授を始めスタッフの方々には本当に感謝しております。

てんかんという疾患には治療から社会問題に至るまで、多くの課題が残されています。百人に一人というありふれた疾患でありながらその認知は医療従事者の中でも決して十分ではない印象があります。研修医を始め、多くの方々もてんかん科を通じて現状や活動を知って頂ければと思います。



週一のカンファレンスです。多科、多職種のスタッフによる様々な意見が飛び交いととても刺激的です。



メンターの柿坂先生と。僕のギャグ観に多大なる影響を与えてもらいました。



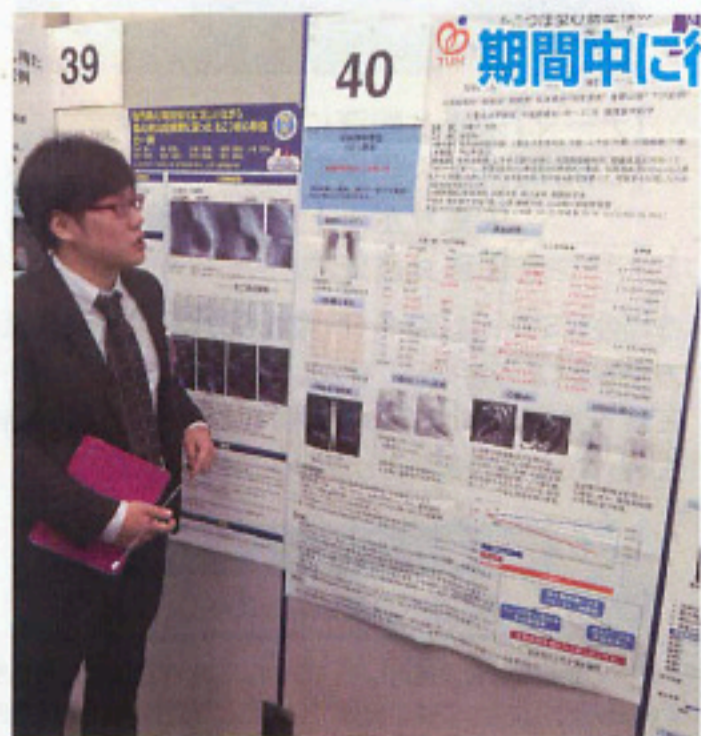
てんかん科のみなさん。てんかんのテーマカラーである紫着用で。

平成28年度 初期研修医募集 スタートしました。



本年も「フルマツチ」を目指し、スタッフ一丸となって頑張ります！

お知らせ



4月11日(土)開催
第112回 日本内科学会総会
期間中に行われた「内科学会ことはじめ」で、
初期研修医の古知龍三郎先生が
優秀演題賞を受賞しました。



【受賞発表演題】
たこつぼ型心筋症様の
壁運動異常を呈した
褐色細胞腫の一例